

国営事業だより (第3号)

一関川用水農業水利事業の平成30年度実施計画、4月に着任した事業所員紹介



笹ヶ峰ダム小水力発電所 水車・発電機
平成28年度に設置完了
平成31年7月 発電開始予定

笹ヶ峰ダム周辺の工事実施状況

※ 赤枠で示した工事がH30年度から実施するもの。
白枠はH29年度以前に引き続いての実施工事。

一 農政情報

土地改良法の一部を改正する法律が、平成30年3月に閣議決定を経て国会に提出されました。昨年に引き続き、2年連続での改正となります。

今回の改正内容は、准組合員制度の導入・総代会制度の見直しが含まれておりますが、この背景となっているのは全国的に進む土地改良区の組合員数や職員数の減少による執行体制の脆弱化、更に言えば農村地域における高齢化と農家の減少です。

農林水産省としてもこれに対応するため、今回の法改正の他にも農地中間管理機構による農地集積・集約化や水田活用の直接支払い交付金を措置するとともに農業農村整備事業の一層の推進に力を入れています。

二 国営関川用水地区の実施状況

国営関川用水地区は、今年度（平成30年度）で着工から5年目となります。

昨年度までの進捗としては、主に笹ヶ峰ダムにおける設備改修と小水力発電所の建設を優先的に進めてきました。29年度には笹ヶ峰ダムの取水ゲート、減勢工やダム管理設備の改修と小水力発電所の附帯施設の建設を行っています。

30年度には、これらについて引き続き工事を進めるとともに、新たにダムの洪水吐ゲートの改修や、ダム管理のための繫船設備の改修、中央管理所の改築工事等を進めてまいります。

このほか、平場では関川右岸幹線水路川上隧道の補修工事や次年度以降に改修予定の上江幹線水路及び中江幹線水路サイホン部分の測量及び設計などを行う予定です。

また、笹ヶ峰ダムの堆砂問題に関しては、これまでの集中豪雨や台風等の影響による堆砂量や今後の堆砂予測等について、学識経験者による委員会に諮ることとしています。

平成30年4月に着任した職員

○ 関川用水農業水利事業所は平成30年4月から組織を増強し、異動者の引き継ぎと合わせて10名が着任しました。国営事業だよりでは、着任した所長および課長3名の紹介と、所長からのご挨拶を掲載いたします。

所長



【氏名】井上 浩（いのうえ ひろし）

【前職】北陸農政局 防災課長

本年4月に関川用水農業水利事業所長に着任しました井上浩と申します。入省以来30数年が過ぎましたが、新潟県勤務は初めてとなります。金沢から新幹線で1時間、上越妙高駅に降り立ったとき、高田平野の田園風景の向こうに雪を被った妙高山を見たとき、その風光明媚なことに驚きました。

現在実施している国営事業は、前歴事業で造成したダムや用水路の老朽化対策を主な目的としていますが、昨今の農業情勢を踏まえ、単なるハード整備に終わらず、農業者をはじめ地域の方々、また地域の発展に如何に貢献していくかが重要だと考えています。今回、私を含め10名が新たに着任し、事業所の体制も整ってきました。今後、関係者の皆様方と十分意見交換しながら国営事業で何が出来るか模索し、この美しい田園風景を守っていくべく努めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

庶務課長



【氏名】

小野塚 敏彦（おのづか としひこ）

【前職】

北陸農政局
設計課 用地調整官

調査設計課長



【氏名】

青木 翔（あおき しょう）

【前職】

中国四国農政局
四国土地改良調査管理事務所
企画課長

用地課長



【氏名】

安達 久敏（あだち ひさとし）

【前職】

北陸農政局
用地課 課長補佐

地区内情報

○ 水田転換畑における園芸及び大豆の収益向上に向けた排水対策技術研修会

4月24日（火）、上越地域農業振興協議会などによる技術研修会が上越市高森のほ場で開催されました。上越地域は重粘土質の土壌により米作に適する一方、大豆や園芸作物の導入が難しいことから、排水やこれらの栽培に関する技術の向上を目指して開催されたもので今回が初めての開催です。

研修会では、農研機構及び上越農業普及指導センターによる講義の後、現地ほ場にてカットドレーン、溝掘機等の施工実演が行われました。参加者は熱心にメモをとったり、上越地域の土壌におけるカットドレーン等の有用性や大豆の栽培事例及び育成の注意点について質問するなど興味深い様子で、園芸作物への関心がうかがえました。



上越地域の農家が集まった
室内研修の様子



カットドレーンによる
補助暗渠の施工



溝掘機による明渠の施工